



平成30年4月に着任しました久祢田啓嗣（くねだけいじ）と申します。

着任早々校内を歩くと、ある教室の壁に「山の上 緑豊かな 磯子高校」という生徒が制作したかるたが貼ってありました。この言葉どおり磯子高校は昭和52年に緑多き高台の閑静な住宅街に開校し、今年で42年目を迎えます。この素晴らしい環境の学校に、第14代校長として着任したことを嬉しく思っております。

これまで、本校は地域の方々や保護者の皆様の温かいご支援とご協力に支えられながら、恵まれた環境の中で教育活動を展開してきました。40年あまりの間、時代の変遷とともに本校に求められるニーズも少しずつ変わってきていますが、現在は「モラルあるよき市民」、即ち自らの自立と他者との協働により社会に貢献できる人間の育成を目標とし、「くもりのない知性」と「豊かな人間性」、「たくましい心身」を身に付けたバランスのとれた生徒を育成することを、職員が一丸となって取り組んでいます。

「くもりのない知性」を育むために、基礎学力を着実に身に付けることを意識した授業展開や「朝の読書」を毎日実施しています。特に「朝の読書」は、落ち着いた雰囲気での一日の学習活動をスタートさせることにつながっています。また、本校ではオーストラリアの高校と姉妹校交流を行っているほか、留学生を受け入れるなど、学校全体で国際理解、異文化理解教育に取り組んでいます。いろいろな人々と交流し、自分の考えや思いを伝え、理解しながら協働する、そんなグローバル社会で求められる広い視野と見識と、「豊かな人間性」を持った生徒を育成していきたいと思っています。そして、「よき市民」の資質として必要な規範意識の醸成と社会的なモラルの向上のために、きめ細やかな生徒指導を行っています。生徒一人ひとりとしていねいに向き合いながら、日々厳しくも温かい指導を行っています。こうした指導により、生徒たちは落ち着いた環境の中で充実した学校生活を送ることができています。

しかし、県立高校改革により平成32年度に氷取沢高校と統合し、磯子高校は新校として生まれ変わることになりました。29年度入試からグローバルコミュニケーションコースが、30年度入試においては全コース募集停止となりました。30年度は2、3年生、31年度は3年生のみの学校となり、平成31年度末に41期生が卒業したあと完校する予定です。学校が完校してしまうことはとても残念なことです。磯子高校の歴史と伝統、そして教育理念は必ず次の新校に受け継がれるものだと思います。

活動できる時間は限られていますが、生徒一人ひとりが輝き充実した生活を送ることができる学校にしたいと思っています。「すべては生徒の笑顔のために」を掲げさまざまな取組を行いたいと思っておりますので、保護者の皆様、また地域、関係者の皆様、磯子高校に是非温かいご支援とご協力をお願いいたします。